

排 気 風

排気温度が150℃を超える場合があります。

- 屋内、倉庫、トンネル、船倉、タンク内などの通気の悪い場所では使用しないで下さい。
- やむを得ず、通気の悪い場所で使用する場合は、排気管を通気の良い所まで延長し、換気装置などを使って十分な換気を行って下さい。
- 排気風は、排気口から3m以内の所で、150℃を越える場合があります。運転中は十分に注意して下さい。

屋内据え付けの際の注意事項

- 排気風は、ダクトなどにより屋外まで導き出してください。
- 屋内の通気が不十分ですと、屋内温度が上昇し危険です。また、屋内温度の上昇は負荷試験器にも影響を及ぼしますので十分な換気を行って下さい。

回 転 部

負荷試験器の内部には、高速で回転している機械部部品があり危険です。

- 運転中は、必ずドアを閉じて施錠して下さい。
- 運転中やむを得ずドアを開く場合、内部に手や顔などを絶対に入れないで下さい。

巻き込まれ怪我をします。

- 内部の点検整備などは、必ず運転を停止し、すべての電源を外してから(負荷試験器を無電圧状態にする)行って下さい。

高温部

負荷試験器の内部には、高温部分が有り危険です。

- 運転中は必ずドアを閉じ、施錠して下さい。また、発電機の周辺は立入禁止区域にして下さい。
- 運転中にやむを得ずドアを開く場合は、内部に手や顔などを絶対に入れないで下さい。

火傷や怪我の恐れが有ります。

- 内部の点検整備などは、必ず運転を停止し、すべての電源を外してから(負荷試験器を無電圧状態にする)行って下さい。
- 運転中または、停止後も機器が完全に冷えるまでは、十分に注意して下さい。

外壁は、最大66℃まで上昇しますので大変危険です。

- 運転中にやむを得ずドアを開く場合は、内部に手や顔などを絶対に入れないで下さい。

火傷や怪我の恐れが有ります。

- 内部の点検整備などは、必ず運転を停止してから行って下さい。
- 運転中または、停止後も外壁に熱い部分があります。完全に冷えるまでは、十分に注意して下さい。
- 負荷試験器の周辺は『立入禁止区域』に指定して下さい。また運転中は、必ずドアを閉じて下さい。

火 災

燃料、オイルなどは危険物です。引火、火災の危険があります。

- 機械の周りに可燃物を置かないで下さい。
- こぼれた燃料やエンジンオイルはきれいに清掃して下さい。
- 負荷試験器は高温になりますので、燃料、灯油、マッチ、その他引火、爆発の危険があるものや可燃物は近づけないで下さい。

感 電

運転中に出力端子に触れると、感電により死亡することがあります。

- 運転中は出力端子に絶対に触れないで下さい。
- 出力端子に触れるときは、発電機及び負荷試験器等をOFFにしてから行って下さい。また、使用中は必ずドアを閉め施錠して下さい。

運転中に内部電線に触れると、感電により死亡することがあります。

- 全てのドアを必ず閉じ、施錠した状態で使用して下さい。
- 全てのドア及び制御盤を開ける場合は、運転を停止し、発電機及び負荷試験器等をOFFにしてから行って下さい。
- 運転中の機械内部には、高電圧の部分が多数ありますので危険です。機械内部の点検整備または保守などを行う場合は、全ての電源をOFFにしてから行って下さい。